



IFCAプロジェクトC

新型コロナの感染拡大によるあなたの生活への影響
についての緊急調査

ー過去に社会的養護を経験したことのあるみなさんへー

2022年度アンケート調査報告書

2023年3月

目次

| | |
|---------------------------------|----|
| はじめに | 1 |
| I アンケートの実施方法 | 2 |
| 1. 調査の目的 | 2 |
| 2. 調査の方法 | 2 |
| 3. 調査項目と実施時期 | 2 |
| 4. 倫理的配慮 | 2 |
| II 回答者について | 3 |
| 1. 回答者の人数 | 3 |
| 2. 年齢 | 3 |
| 3. 性別 | 4 |
| 4. 社会的養護の経験 | 4 |
| III 調査から見えてくること | 6 |
| 1. 全般的な生活状況 | 6 |
| (1) 生活状況や住まい | 6 |
| 2. 現在の経済状況 | 7 |
| 3. 身体の状態 | 7 |
| 4. 心の健康状態 | 8 |
| 5. 孤立・孤独感 | 8 |
| 6. 住まいの状況 | 9 |
| 7. 食生活への影響 | 9 |
| 8. 教育の状況 | 10 |
| 9. 仕事への影響 | 10 |
| 10. プラスの影響, マイナスの影響 | 11 |
| 11. 新型コロナ流行からの三年間について思うこと | 16 |
| 12. 調査への意見 | 18 |
| 参考資料 | 22 |
| 1. IFCA のこれまで | 22 |

| | |
|-----------------------|----|
| 2. この調査にかかわった人たち..... | 22 |
| 3. 調査内容..... | 23 |

はじめに

2020年に発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）（以下、新型コロナ）の感染拡大は、何度かの感染拡大、収束を繰り返しながら継続してきました。社会的養護経験者の当事者参画のために活動する私たち IFCA（NPO 法人インターナショナル・フォスターケア・アライアンス）では、感染拡大の1年目であった2020年に新型コロナの感染拡大が当事者にどのように影響を与えているのか、当事者は何に困っているのかを明らかにする調査に取り組み、その結果をもとに社会的養護経験者が新型コロナ禍を生き延びていくために必要なことを提言としてまとめ、報告しました（『2020 調査』）。

その後、New Normal、With コロナという言葉が使われたことに象徴されるように、感染拡大とその影響が長期化した2021年にも感染拡大の長期化が社会的養護経験者にどのような影響を与え続けているのかについての調査を実施しました（『2021 調査』）。

そして感染拡大が3年目を迎えた2022年。私たちは改めてこの3年間を振り返り、新型コロナの感染拡大が社会的養護経験者の生活にどのような影響を与えたのかを総括する調査を行いたいと考えました。今回の調査はこれまでの調査時に継続した調査への協力を承諾してくださった方を対象に実施しました。

この報告書では、『2020年調査』『2021年調査』の結果も踏まえながら、『2022 調査』の結果を報告するものです。特に今回は自由記述による回答を多くいただきましたので、そうした内容を中心に報告します。

I アンケートの実施方法

1. 調査の目的

新型コロナの感染拡大が長期化する中、当事者ユースがどのような困難を経験しているのか、特に前回調査との比較を行いながら長期化の影響を当事者の「声」をもとに明らかにしていくことを目的として、アンケート調査を実施しました。

2. 調査の方法

調査は web フォームによる質問紙調査によって行われました。対象は 2020 年に実施した調査に回答いただいた方たちです。『2020 調査』時には「過去に社会的養護を経験したことのある 16 歳以上 40 歳未満の方」「現在、社会的養護のもとで暮らしている方、措置延長中の方は対象外」として調査を実施していましたので、それから 2 年が経過した今回の調査では、年齢は「18 歳以上 42 歳未満の方」となっています。

前回調査時に提供されたメールアドレス宛に質問紙を送付し、回答をお願いしました。また回答者には謝礼品（電子ギフトカード）が後日送付されました。なお、調査は匿名で実施され、これまでに実施した調査の内容と今回の調査の内容についても、個人で一致させる情報の収集は行っていません。

3. 調査項目と実施時期

質問項目はこれまでに実施してきた調査内容をシンプル化した項目（全般的な生活状況、経済状況、身体・心の健康状態、孤立孤独感、住まいへの、食生活への影響、仕事への影響、プラスの影響、マイナスの影響）についての回答をお願いしましたが、特にそれぞれの項目に自由記述欄を設け、ご自身の想いや経験を書き表していただくことをお願いしました。なお、調査項目は巻末に示しています。

調査は 2023 年 1 月 25 日～2 月 15 日に実施しました。

4. 倫理的配慮

アンケートの実施については、回答者の安全と人権を守るために、①アンケートへの参加に対する自由意志と拒否権について、②研究参加に伴う負担及び予測されるリスクと利益について、③個人情報の取り扱いについて、④研究に関する資料・情報の開示、研究成果の公表について、⑤研究組織、実施者の連絡先について明示しました。

また、本調査については、武蔵野大学人間科学部研究倫理審査を受けています（申請者：永野咲 承認番号：2020-02-04）。

II 回答者について

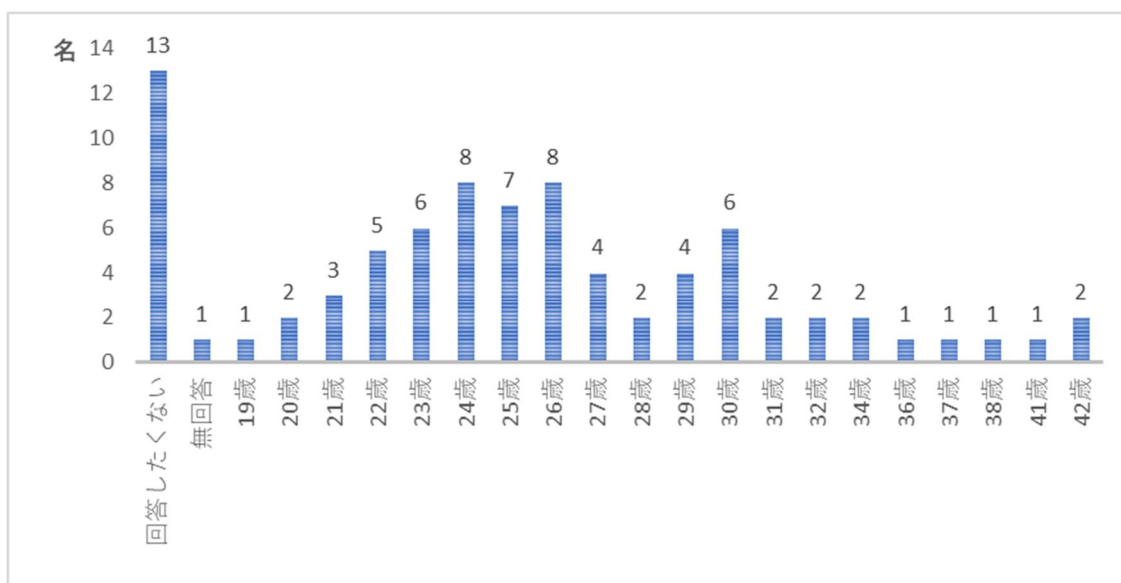
1. 回答者の人数

今回のアンケートに回答して下さった方々は、合計 82 名でした。

『2020 調査』の回答者は 425 名、『2021 調査』の回答者は 144 名でした。今回は『2020 調査』時に継続した調査協力が得られ、メールアドレスを回答して下さっていた 395 名に調査へのご協力を依頼しました。しかし、そのうち 56 名には宛先不明等の理由によりメールを送ることができず、実際に送付したメールは 339 通でした。最終的には 82 名の方からの回答が得られ、その内容をもとに分析を進めることになりました。

2. 年齢

回答者の年齢で最も多かったのは、24 歳と 26 歳で 8 名 (9.8%) でした。『2021 調査』時に最も多かったのが 21 歳で、回答者の約半数が 23 歳以下だったことを考えると全体的に回答者の年齢は前回調査時よりも高くなっています。

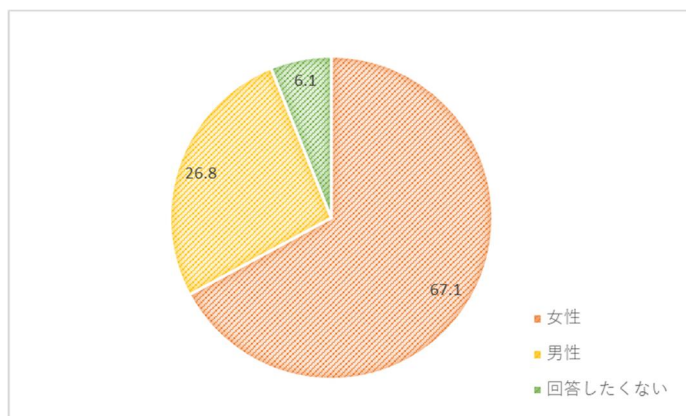


3. 性別

性別では、前回調査と同様、女性の回答が多くなっています。

男性 22 名 (26.8%)、女性 55 名 (67.1%)、回答したくない 5 名 (6.1%) でした。

『2020 調査』時は男性 109 名 (25.6%)、女性 297 人 (69.9%)、回答拒否 15 名 (3.5%)、その他 2 名 (0.5%)、『2021 調査』時は男性 30 名 (20.8%)、女性 99 名 (68.8%)、回答したくない 14 名 (9.7%) でしたので、全体的な傾向はこれまでの調査と大きな違いは見られません。



4. 社会的養護の経験

社会的養護の経験を複数回答で尋ねました。最も多い回答である児童養護施設は 53 名 (64.6%) が経験しています。ついで、29 名 (35.4%) が一時保護所を経験しています。ただし、一時保護経験者には、児童養護施設等の施設入所措置や里親委託になった人と、家庭引き取りになった人の両者がいると考えられます。

『2020 調査』『2021 調査』と比べてみると、児童養護施設や乳児院を経験したと回答した人の割合が低下する一方、「わからない」という回答が増加していることがわかります。このことから、これまでの調査の回答者と今回の調査の回答者には少し偏りがみられる可能性が示唆されます。

| 種類 | 2022 | | 2021 | | 2020 | |
|----------|------|-------|------|-------|------|-------|
| | N | % | N | % | N | % |
| 乳児院 | 5 | 6.1% | 13 | 9.0% | 45 | 10.6% |
| 里親家庭 | 13 | 15.9% | 17 | 11.8% | 51 | 12.0% |
| 児童養護施設 | 53 | 64.6% | 101 | 70.1% | 340 | 80.0% |
| 自立援助ホーム | 8 | 9.8% | 15 | 10.4% | 41 | 9.6% |
| 児童自立支援施設 | 2 | 2.4% | 7 | 4.9% | 35 | 8.2% |
| ファミリーホーム | 1 | 1.2% | 2 | 1.4% | 10 | 2.4% |
| 母子生活支援施設 | 4 | 4.9% | 12 | 8.3% | 24 | 5.6% |
| 児童心理治療施設 | 1 | 1.2% | 3 | 2.1% | 9 | 2.1% |
| 一時保護所 | 29 | 35.4% | 53 | 36.8% | 130 | 30.6% |
| わからない | 15 | 18.3% | 16 | 11.1% | - | - |
| その他 | 3 | 3.7% | 5 | 3.5% | 15 | 3.5% |

今回の調査では最後に経験した社会的養護の種別も尋ねました。その結果、児童養護施設と回答した方が半数を占め、次いで「わからない」「里親家庭」という回答が多くみられました。

| 種類 | N | % |
|----------|----|------|
| 乳児院 | 2 | 2.4 |
| 里親家庭 | 7 | 8.5 |
| 児童養護施設 | 41 | 50.0 |
| 自立援助ホーム | 8 | 9.8 |
| 児童自立支援施設 | 1 | 1.2 |
| 母子生活支援施設 | 2 | 2.4 |
| 児童心理治療施設 | 1 | 1.2 |
| 一時保護所 | 4 | 4.9 |
| わからない | 14 | 17.1 |
| 無回答 | 2 | 2.4 |

社会的養護の経験の長さについては10年未満の人が41名(42.8%)で、最も長い回答は21年でした。

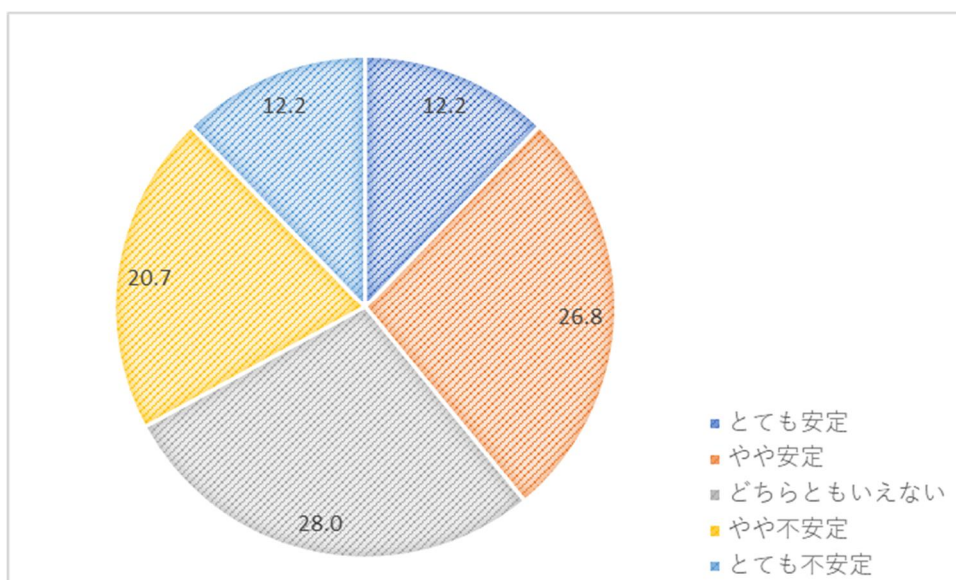
Ⅲ 調査から見えてくること

Ⅰ. 全般的な生活状況

(Ⅰ) 生活状況や住まい

現在の全般的な生活状況について「とても安定」「やや安定」「どちらともいえない」「やや不安定」「とても不安定」の中から該当するものを選択してもらいました。

結果として、感染が拡大してきたこの間の生活全般の状況としては、比較的安定していた人、どちらともいえない人、比較的不安定だった人がそれぞれ同程度（3割ずつくらい）いることがわかります。『2021 調査』の結果にも示された通り、社会的養護経験者だからすべてが強い困難を経験しているというよりは、同じように社会的養護経験した人たちの中でもコロナの否定的な影響を強く受けた人とそうでない人がいることが伺われます。



2. 現在の経済状況

現在の経済状況について「今後3か月以上安定していると思う」「今後1か月くらいは大丈夫だと思う」「今後1か月以内にはお金がなくなりそう」「現在、お金に困っている」「その他」の中から該当するものを選択してもらいました。

その結果、『2021 調査』と大きな変化はありませんでしたが、「現在、お金に困っている」という回答の割合は減少傾向にあるようでした。それでも「今後1か月以内にはお金がなくなりそう」という回答の割合はわずかではあるが上昇しているように、危機が去っていないと感じている方がいるのが現実です。

| 選択肢 | 2022 | | 2021 | |
|--------------------|------|------|------|-------|
| | N | % | N | % |
| 今後3か月以上安定していると思う | 41 | 50.0 | 70 | 49.3% |
| 今後1か月くらいは大丈夫だと思う | 24 | 29.3 | 39 | 27.5% |
| 今後1か月以内にはお金がなくなりそう | 2 | 2.4 | 2 | 1.4% |
| 現在、お金に困っている | 13 | 15.9 | 29 | 20.4% |
| その他 | 2 | 2.4 | 2 | 1.4% |

3. 身体の健康状態

現在の身体の健康状態について「とても良い」「どちらかといえば良い」「どちらともいえない」「どちらかといえば悪い」「とても悪い」の中から該当するものを選択してもらいました。

3年間を振り返ってみると『2021 調査』時が身体の健康状態が「とても悪い」「どちらかといえば悪い」と回答した人の割合が高く、感染の拡大局面（『2020 調査』時）よりも感染拡大の長期化局面（『2021 調査』時）で身体的健康の状態が悪化していたことがわかります。現在（2022 調査）では、2021 調査時点よりも若干の改善がみられますが、構成比だけを見ると感染拡大前よりも悪い状態が続いているようです。

| 選択肢 | 2022 | | 2021現在 | | 2021感染拡大前 | |
|------------|------|------|--------|------|-----------|------|
| | N | % | N | % | N | % |
| とても良い | 13 | 15.9 | 25 | 17.5 | 32 | 22.4 |
| どちらかといえば良い | 27 | 32.9 | 41 | 28.7 | 47 | 32.9 |
| どちらともいえない | 24 | 29.3 | 39 | 27.3 | 42 | 29.4 |
| どちらかといえば悪い | 15 | 18.3 | 30 | 21.0 | 18 | 12.6 |
| とても悪い | 3 | 3.7 | 8 | 5.6 | 4 | 2.8 |

4. 心の健康状態

現在の心の健康状態について「とても良い」「どちらかといえば良い」「どちらともいえない」「どちらかといえば悪い」「とても悪い」の中から該当するものを選択してもらいました。

3年間を振り返ってみると、身体の状態と同様に、『2021 調査』時が心の健康状態が「とても悪い」「どちらかといえば悪い」と回答した人の割合が高く、感染が拡大していった時よりも感染拡大の長期化にある局面で心の健康状態が悪化していたことがわかります。

| 選択肢 | 2022 | | 2021現在 | | 2021感染拡大前 | |
|------------|------|------|--------|------|-----------|------|
| | N | % | N | % | N | % |
| とても良い | 10 | 12.2 | 20 | 14.0 | 23 | 16.1 |
| どちらかといえば良い | 18 | 22.0 | 25 | 17.5 | 33 | 23.1 |
| どちらともいえない | 28 | 34.1 | 41 | 28.7 | 39 | 27.3 |
| どちらかといえば悪い | 16 | 19.5 | 38 | 26.6 | 31 | 21.7 |
| とても悪い | 10 | 12.2 | 19 | 13.3 | 17 | 11.9 |

5. 孤立・孤独感

現在、孤立・孤独感どれくらいの頻度で感じているかについて常にある「時々ある」「どちらともいえない」「ほとんどない」「全くない」の中から該当するものを選択してもらいました。

身体と心の健康と同様に、3年間を振り返ってみると『2021 調査』時が孤立・孤独感が強いと回答した人の割合が高いことがわかります。『2022 調査』時点でも半数近くが孤立・孤独感が「常に」あるいは「時々」あると回答しており、社会的養護経験者にとっては孤立・孤独感が慢性化したものであることが伺われます。

| 選択肢 | 2022 | | 2021現在 | | 2021感染拡大前 | |
|-----------|------|------|--------|------|-----------|------|
| | N | % | N | % | N | % |
| 常にある | 17 | 20.7 | 33 | 23.1 | 31 | 21.7 |
| 時々ある | 22 | 26.8 | 46 | 32.1 | 35 | 24.5 |
| どちらともいえない | 24 | 29.3 | 27 | 18.9 | 40 | 28.0 |
| ほとんどない | 15 | 18.3 | 22 | 15.4 | 21 | 14.7 |
| 全くない | 4 | 4.9 | 15 | 10.5 | 16 | 11.2 |

6. 住まいの状況

新型コロナが自身の住まいの状況に大きな影響を与えているかどうかについて「よくあてはまる」「あてはまる」「あまりあてはまらない」「全然あてはまらない」「わからない」の中から該当するものを選択してもらいました。

およそ1/4が「よくあてはまる」「あてはまる」、すなわち影響が大きかったと回答している。この傾向は2021年調査時点よりも若干改善しているが大きな減少とまでは言えない。

| 選択肢 | 2022 | | 2021 | |
|------------|------|------|------|-------|
| | N | % | N | % |
| よくあてはまる | 5 | 6.1 | 13 | 9.1% |
| あてはまる | 18 | 22.0 | 36 | 25.2% |
| あまりあてはまらない | 37 | 45.1 | 59 | 41.3% |
| 全然あてはまらない | 21 | 25.6 | 30 | 21.0% |
| わからない | 1 | 1.2 | 5 | 3.5% |

7. 食生活への影響

新型コロナが自身の食生活の状況に大きな影響を与えているかどうかについて「よくあてはまる」「あてはまる」「あまりあてはまらない」「全然あてはまらない」「わからない」の中から該当するものを選択してもらいました。

よそ35%が「よくあてはまる」「あてはまる」、すなわち影響が大きかったと回答しています。経年的な変化を見ると「よくあてはまる」の回答は減少していますが「よくあてはまる」「あてはまる」を合計した割合にはほとんど変化が見られないために、より強い困難は少しは緩和されたが、変わらず困難が継続しているとみることができるとでしょう。

| 選択肢 | 2022 | | 2021 | |
|------------|------|------|------|-------|
| | N | % | N | % |
| よくあてはまる | 5 | 6.1 | 13 | 9.1% |
| あてはまる | 25 | 30.5 | 38 | 26.6% |
| あまりあてはまらない | 31 | 37.8 | 62 | 43.4% |
| 全然あてはまらない | 20 | 24.4 | 26 | 18.2% |
| わからない | 1 | 1.2 | 4 | 2.8% |

8. 教育の状況

受けていた教育に関する状況が感染拡大の長期化によってどのように変化したかを尋ねました。

この間、何らかの教育を受けていた人は回答者の約6割で、休学したり、就学の継続が困難な状況に陥ったりした人もわずかではあるが見られる中、多くの人が就学を継続していたり、無事に卒業等に至ったと回答しました。

| 選択肢 | N | % |
|---------------------------------|----|------|
| 新型コロナ以前は教育を受けていなかった・修了していた | 33 | 40.2 |
| 問題なく継続している・無事に卒業した・無事に進学した | 10 | 12.2 |
| 大変なこともあったが、なんとか継続している・卒業した・進学した | 14 | 17.1 |
| 教育の状況は変わらない | 18 | 22.0 |
| 大変なことがあり、継続・卒業・進学が難しくなっている | 1 | 1.2 |
| 休学しており、復学の予定がたたない | 1 | 1.2 |
| その他 | 4 | 4.9 |
| 無回答 | 1 | 1.2 |

9. 仕事への影響

新型コロナの長期化が自身の仕事にどのような影響を与えたかを尋ねました。

『2021 調査』に比べると仕事が新型コロナの影響を受けたという人の割合は減少し、収入が不安定になったという回答も減少しています。一方で就職への影響については「まだよくわからない」と不透明感を感じている人の増加がみられました。

| 選択肢 | 2022 | | 2021 | |
|--------------------------------|------|-------|------|-------|
| | N | % | N | % |
| 私の仕事は新型コロナの影響を受けていない | 36 | 43.9% | 42 | 29.4% |
| 新型コロナの影響で解雇された | 1 | 1.2% | 11 | 7.7% |
| 新型コロナの影響で収入が不安定になった | 20 | 24.4% | 49 | 34.3% |
| 新型コロナの影響で時間・収入が大幅にカットされた | 5 | 6.1% | 28 | 19.6% |
| 新型コロナの影響で解雇されそう、あるいは著しい減給がありそう | 0 | 0.0% | 6 | 4.2% |
| 新型コロナの就職への影響については、まだよくわからない | 17 | 20.7% | 12 | 8.4% |
| 新型コロナ以前は仕事をしていなかった | 10 | 12.2% | 19 | 13.3% |
| その他 | 3 | 3.7% | 9 | 6.3% |

10. プラスの影響、マイナスの影響

新型コロナの長期化によって自身の生活にプラスの影響、マイナスの影響があったかを尋ねました。

6割近い回答者がマイナスの影響があったと回答した一方で、プラスの影響があったと回答した人は約18%でした。やはりマイナスの影響が大きいようですが、プラスの影響を感じている人も5人に1人程度の割合でいることがわかります。

| プラスの影響 | | | マイナスの影響 | | |
|-----------|----|------|-----------|----|------|
| 選択肢 | N | % | 選択肢 | N | % |
| とてもあった | 1 | 1.2 | とてもあった | 12 | 14.6 |
| まあまああった | 14 | 17.1 | まあまああった | 36 | 43.9 |
| どちらとも言えない | 29 | 35.4 | どちらとも言えない | 24 | 29.3 |
| あまりなかった | 26 | 31.7 | あまりなかった | 7 | 8.5 |
| まったくなかった | 12 | 14.6 | まったくなかった | 2 | 2.4 |
| | | | 無回答 | 1 | 1.2 |

新型コロナの長期化によるプラスの影響について、自由に意見を求めたところ、記載内容を大別すると、「支援制度」、「オンライン化による負担の減少」、「オンラインによるコミュニケーションの円滑化」、「生い立ちに関するストレスの減少」、「必要最低限の人との接触」、「プライベートな時間の充実」、「感染対策知識の増加」の6つとなった。

「コロナ対策」による直接的なプラスの影響としては、給付金などによる直接的な支援や、オンラインによるコミュニケーションの円滑化などが挙げられた。またコロナの影響で負担が減少したものとして、人との接触が最低限になったことによりプライベートな時間の充実へとつながっていることがみてとれる。その中でも、「生い立ちで孤独感を話してもイメージが湧かなかったようだが、コロナ後は、ようやく孤独感を理解してもらえた。」「里帰りしないことを人に伝える際に親がいないことを伝えなくて済む。」といったように、社会的養護経験者にとっては、生い立ちに関する人間関係のストレスが緩和される側面もあることがわかった。

以下に種別ごとの件数と、主な記載内容を挙げる。

| |
|--|
| <p>支援制度(7件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療従事者なので、基本の仕事に加えてコロナのクラスターなどの対応に当たったため手当が付き収入が少しだが上がった。 ・補助金などもらったこと。 ・支援物資 ・21年までは、旅行支援、各種クーポン、割引がほぼ無審査でできた。ケータイ各社も支払い延長をしたり、かなり温情対応があった。 |
| <p>オンライン化による負担の減少(10件)</p> <p>金銭面や通学通勤時間の負担の減少(4件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学の講義がオンラインになり、通学に時間や費用がかからなくなった。 ・オンラインのやり取りが増えたことで、その場に行くまでの交通費や交際費の削減に成功した ・家に籠るようになったので、無駄遣いが減った <p>必要最低限の人との接触(6件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場での飲み会など煩わしいことが減った ・人混みが少なくなった ・席が近すぎず、人との距離を保てるようになったためパーソナルスペースが広めの自分にとっては楽だった ・人に会わない、会話しないうちにコロナのせいという理由付けが出来る |
| <p>オンラインによるコミュニケーションの円滑化(6件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事は・友人や家族と連絡を取る回数が増えたのが良かった。 ・オンラインなどでつながることによって、遠方の友人が増えた。 ・zoom が流行って、遠方の友達とも画面越しではあるがお喋りできること。 ・私は障害があるので家で気軽にみんなと話せるのは嬉しかったです。しかし会うに越したことはないという問題はあります……。 |
| <p>生き立ちに関するストレスの減少(2件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き立ちで孤独感を話してもイメージが湧かなかったようだが、コロナ後は、ようやく孤独感を理解してもらえた。 ・里帰りしないことを人に伝える際に親がいないことを伝えなくて済む。 |
| <p>プライベートな時間の充実(6件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リモートでのやりとり、時間が自由に使える ・自分を見つめ直すいい機会になった。 ・1人の時間が増えた ・料理を学べた ・家族と過ごす時間が増えたこと。 |
| <p>感染対策知識の増加(4件)</p> |

- ・医療従事者なのでコロナ関連の主に感染対策の知識がついた。
- ・マスクをすることで、風邪をひかなくなったこと。
- ・手洗いやうがいを前よりちゃんとするようになった。
- ・衛生面にはコロナ前よりさらに気を使うようになった

その他、「特になし」という回答が 10 件あった。

新型コロナの長期化によるマイナスの影響について、自由に意見を求めたところ、記載内容を大別すると、「感染対策による経験の喪失」、「不安定な生活環境」、「負担増によるストレス」、「孤独・孤立感」、「コロナ禍以前からの課題」の 5 つとなった。

行動制限による孤独・孤立感や、収入面・心身面の負担については、コロナ対策が緩和されつつある今でも、長期化の中でその状況が継続している様子がみてとれた。この負担が継続している状況は、多くの社会的養護経験者にとっては、コロナ以前から抱えていた課題であること、またコロナ禍でより課題が増幅した状況であるということは、改めて認識されなければならない。また現在、コロナ支援制度の終了や、ウィズコロナとして生活環境が戻りつつある状況も、もともと支援とのつながりが脆弱な社会的養護経験者にとっては、不安やストレスが増す事態になり得ることも危惧される。

以下に種別ごとの件数と、主な記載内容を挙げる。

感染対策による経験の喪失(11件)

- ・旅行に行けない。
- ・学校行事が無くなった
- ・子どもの教育やイベント等参加できないことが多かった。
- ・大人数での飲み会や集まりなどがあまりできませんでした。
- ・就職活動が思うようにできなかった。

不安定な生活環境(19件)

収入面の不安定さ(12件)

- ・収入が不安定になり生活が苦しい
- ・子供達が休校や休園になる度に仕事を休まなければいけなくて収入が減りました。
- ・年収も約 60 万円ほど減額したこともあります。
- ・勤務時間を減らされた
- ・会社が倒産し、離職した。シフトが減少し、月給が 2 万円となった。
- ・実習前に感染予防として原則バイト禁止とされ、実習期間と合わせて長い間バイトできなくなった
- ・経済的打撃など、全くりカバリーされていないものを無視して、支援を段階的に減らしている。

精神面の不安定さ(5件)

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・職業柄羅漢したらどうしようという思いがあり不安な日々があった ・精神疾患のため病院受診や訪問看護等のサービスを受けているが、職員がコロナの濃厚接触になったなどの理由でサービスが受けられない事が多々発生している。 ・マスクが無いと不安 ・外に出られなくなった事で気持ちが不安定になる時がある。生きていけるかや私は必要とされてるのかなど考える時がある。 |
| <p>身体面の不安定さ(2件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動をさらにしなくなった ・ストレスが溜まると身体に出てしまう事。 |
| <p>負担増によるストレス(13件)</p> |
| <p>仕事の負担増(3件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策のための業務が増えた ・仕事や人と会うときに、感染対策の配慮があり、対策のための仕事が増えたり、気遣いが増えたりと、疲れを感じる。 |
| <p>日常生活での負担増(10件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消毒など手間でストレスが増えました。 ・物価の上昇。 ・マスクの生活が息苦しい。 |
| <p>孤立・孤独感(13件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事など、友人などと直接コミュニケーションを取る機会が減り、新たな出会いも無く、寂しいと孤独を感じる。以前住んでいた施設にも顔を出すことができない。 ・社会的な断絶を感じる ・孤独感 気軽に人と会えない ・大学の教員や同期と会う機会が少なく、ひとりで解決しなければならないことが増えた。気軽に相談できる相手がいなくなった。 ・友達と会えなくなり孤独を感じるが増えた。今でも会うことは無くなった ・他人との交流が減った |
| <p>コロナ禍以前からの課題(1件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ以前の問題です |

その他、「特になし」という回答が 4 件あった。

新型コロナの流行で生じたマイナスの影響について、どのように対処したか、自由に意見を求めたところ、記載内容を大別すると、「支援制度の活用」、「積極的な取り組み」、「生活の大きな転換」、「日常の工夫でのしぐ」、「対処できなかった」の 5 つとなった。

転職や、人と交流できる機会を努力して作ることにより、収入面や孤立・孤独感に対処している様子がみられた。一方で、対処することへの諦めや、対処方法がわからず何もできない

かった声も多数みられた。中には援助交際により収入の補填をはかった経験や、オンラインにより新たな出会いを求めたがより孤立感を深めた経験も挙げられた。

社会的養護経験者としては、行動制限により、出身施設とのつながりも無くなってしまい孤立感を深めた状況もみられた一方で、SNSを活用し、同じ社会的養護経験者としてのコミュニティへアプローチして新たな交流をはかった経験も挙げられた。

以下に種別ごとの件数と、主な記載内容を挙げる。

| |
|--|
| 支援制度の活用(2件) |
| <ul style="list-style-type: none"> ・政府の給付金や社協の貸付金でなんとかしました。 ・国の支援金などを借りた |
| 積極的な取り組み(13件) |
| <p>人と交流できる機会を作った(8件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事をしながら会社や関係会社の人間と会うようにした ・会える人にはあって心の繋がりはかった ・電話や SNS で人と繋がる ・孤独感は友人や兄弟と電話することにより解消 ・オンラインや通話で人と話すようになったり、少人数で時々会うことでなんとかかなりました。みんな寂しいのは同じ気持ちなのだとか共有できたのが大きかったかもしれません。 |
| <p>周囲へ援助を求めた(3件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周りの人に助けて貰った ・元々通っている精神科で相談 ・18歳で自立した時と比べると、苦しくなかったため、冷静に人に相談して仕事を探した。 |
| <p>新たな出会いを求めた(2件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マッチングアプリなど出会い系アプリをダウンロードした。孤独が深まるだけでした。 ・社会的養護出身者のコミュニティに参加した。Twitter で似た境遇の人を探した。 |
| 生活の大きな転換(3件) |
| <p>転職による改善(2件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご縁があって、転職することができました。その影響もあってか、児童福祉の業界がメインですが、本業以外にそれに付随する副業やお仕事の打診をいただくことが多くなり、収入が安定していると実感しています。 ・異なる業種に転職した。 |
| <p>生活実態の変化(1件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らししていた家を出て今は祖父母宅に住まわせてもらっている |
| 日常の工夫でしのぐ(17件) |
| <p>収入減の補填(5件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・援助交際で凌いだ |

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・収入的な部分は休日出勤や残業で補填した。 ・貯金でやりくりした |
| <p>感染対策の工夫(6件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・徹底した感染対策をした ・苦しい時にマスクを顔から少し離したり、近くに人がいない時はマスクをしない ついたて一緒に来た相手ではなく他のテーブルとの間につい立てるようにする ・買いだめ |
| <p>前向きに過ごす(6件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールを守りながら自分でできる範囲で楽しむ。 ・できるだけ健康的な状態を維持する。 ・どこにも行かないからお金が貯まるという思考を持った ・こまやかにストレスを解消させるように意識して暮らした |
| <p>対処できなかった(8件)</p> |
| <p>諦め(4件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕方ないと思うようにした ・施設には行けなくなった 外でも視察の先生と会えなくなった 施設の中でも大変そうだから、会えない上に連絡も躊躇してしまう、結果相談できない、連絡することがいけないことのように感じる ・対処もなにもない。使わない、制度への批判を政府に送る、仕方なく解約、放置。などなど。今は耐える時。 ・旅行できないのは仕方がないので我慢。 |
| <p>対処方法がわからない(4件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイナスの影響をしっかりと対処できたとは到底思えない。 ・どうすることもできなかった。1人で耐えるしかなかった。 ・何も対処出来ていない。どうしていいかわからない。 ・就職活動をしても、内定をいただけなかった。 |

その他、「特になし」という回答が 6 件あった。

11. 新型コロナ流行からの三年間について思うこと

新型コロナ流行からの三年間について思うことでは、「仕事について」、「生活について」、「人とのつながりについて」、「新型コロナ・アフターコロナについて」、「社会的養護経験者や社会へのメッセージ」の 5 つに関する回答があった。

新型コロナウイルスの感染拡大が、社会的養護経験者の仕事や生活に多大な影響を及ぼしたことが窺えた。また、「人とのつながりについて」に関する記載も多く、未曾有の災害による社会の混乱や外出自粛などの人と会う機会を制限する対策などにより、人とのつながりが希薄化し、孤独・孤立感が深まったとする者も少なくなかった。ただ、仕事や生活の基盤、人とのつながりの脆弱さについては、新型コロナウイルスの流行以前より課題として認

識されており、もとより脆弱で余裕のない状況にあった社会的養護経験者にさらなる追い打ちがかけられたと認識する必要があるだろう。「新型コロナ・アフターコロナについて」では、新型コロナウイルスの感染拡大による社会の変化に困惑する声や、行動制限やマスク着用に対する息苦しさ、新型コロナの終息を期待する声などが挙げられていた。「社会的養護経験者や社会へのメッセージ」では社会的養護経験者の厳しい生活状況を憂い、その対策を求める声のほか、社会的養護経験者のみに留まらず、子育て家庭全般への支援の充実、全国民を対象とした支援の拡充を求める声などが挙げられていた。

以下に種別ごとの件数と、主な記載内容を挙げる。

仕事について(4件)

- ・仕事が無くなったが、私は大学を出ていないため、安定した職業に付けずとても困っている。
- ・新社会人としてあまりに苦いデビューとなった。4月から7月までの間に3つの会社で就業を経験することとなり、かなり落ち着かない期間だった。
- ・就業している業種の先行きが不透明であったが、資格取得を目指すきっかけになった。

生活について(19件)

- ・仕事は減り、給料は減り、子どもに習い事はさせられず、行楽地も行けず、食材はきちんと買えず、不便で不自由でストレスがたまる生活だった。まだ、解消されていないので疲れます。
- ・新型コロナウイルスの流行の影響により退職し、収入が不安定になりました。行政の緊急小口資金などの貸付もありぎりぎりなんとか生活はできましたが、まだ職も安定してないなか返済もありますますくるしいです。
- ・ストレスが溜まる一方だった。
- ・制限が多くて生活しづらかった。
- ・おうち時間が増えた。
- ・世間一般では雇用問題等が取り上げられていたが、環境のお陰で無事平穩に過ごせている。
- ・コロナになっても人と関わる生活をしていたので特に寂しいことはなかった。

人とのつながりについて(21件)

- ・理不尽なことは防ぎようがないと改めて思い知らされた。家族、身寄りがない私のような人はすぐに孤独になってしまうし、落ち込むことが増えたように思う。
- ・困った時に頼れる人、家族がいないのは辛かった。
- ・出身施設には自分がいた頃の職員がもう在職していなかったため相談できなかった。
- ・以前より家族の話題を聞くことが増えて、精神的に疲れた。
- ・コロナが流行した頃は大学生で、周りの友達が緊急事態宣言を受けて実家に帰ったり、家族と連絡を密に取り合い支え合っている様子が羨ましくて仕方なかった。また初期は未知の感染症だったこともあり、自分が感染しても誰も助けてくれない、感染して倒れてしまっても孤独死するしかないのかと絶望的な気持ちに苛まれた。

・私はコロナ以前からパートナーと生活していたので乗り越えられたが、パートナーと付き合いがなかったらもっと孤独感を強く感じていたと思う。

新型コロナ・アフターコロナについて(31件)

- ・新型コロナが流行する以前の生活が思い出せない。
- ・しんどいこともたくさんあったが、zoom の文化、働き方の変化、イベントの参加の仕方が多様化したりと、いい部分もあったように思う。
- ・前の生活が取り戻されつつあるような気がする
- ・コロナが流行り出してからガラッと世界中が変わって一年くらいはどうすればいいのかわからないまま困惑していましたが、今はコロナの生活も慣れてきました。行動の制限も緩くなりまた以前の生活に戻ると思ったら嬉しくもあり、少し不安な気持ちもあります。
- ・マスクするのが辛い。でも取ったら顔を見られるので怖い。
- ・いつまでマスクをした生活が続くのか。

社会的養護経験者や社会へのメッセージ(5件)

- ・結局自分の人生は、自分で切り開くしかない。心を強く持つしかないと思います！
- ・頑張りたい人が、不可抗力で頑張れない、諦めないといけないというのが一番心が痛いです。
- ・親に対しての子育てに関する制度や補助などがより充実されることを強く望みます。
- ・社会的養護も普通の家庭も垣根なく支援が必要なのだ。

その他、「特になし」という回答が6件あった。

12. 調査への意見

2020年の第1回調査、2021年の第2回調査に参加した感想や調査に対する意見を求めたところ、以下の回答があった。なお、個人が特定される情報等は加工している。

記載内容を大別すると、「調査への肯定的評価」、「調査への参加と結果」、「調査に回答することの効果」、「調査の必要性と負担」、「社会全体の課題」の5つとなった。

今回の3カ年に及ぶ継続調査に対して、調査への肯定的なコメントを寄せていただいた。「調査への肯定的評価」の中には、調査があること自体によって「忘れられていない」と感じ、「救われた」「ありがたかった」という意見があった。また、今回調査で謝礼を設定したことが助けになったとの意見もあった。

「調査への参加と結果」について、調査自体への参加について「役に立ちたい」というモチベーションから回答いただき、その結果を生かして欲しいとの意見を寄せていただいた。

また、「調査に回答することの効果」として、自身のこれまでを振り返る機会となったり、他の人の回答から励まされたという意見もあった。

一方で、「調査の必要性と負担」として、調査の必要性はあるものの、回答の負担についても言及があった。最後に、「社会全体の課題」として、社会的養護全体の改善についても意見を寄せていただいた。

改めて貴重なご意見の寄せてくださったことにお礼を申し上げたい。

調査への肯定的評価(13)

調査があることがうれしかった(8)

- ・ 私たちの様な育ちの人間に興味を持って貰えていることが、凄く嬉しいと思った
- ・ コロナ禍で人との繋がりが希薄になり、家族のいない私のような人間は誰にも気にかけてもらえないと思っていた。仕方ないと思っていたが、社会的養護という弱い立場のわたし達を忘れていない人がいるというだけで救われた気持ちになった
- ・ こういった調査があると児童支援などの施設を出た身としてはとてもありがたい
- ・ 調査をしていただき、ありがとうございます。
- ・ 調査してくれる団体があることが良いことだと思う。
- ・ 当事者の声を聞く調査によって、よりよい支援の選択肢が増えていくのだとしたら、ありがたいことです
- ・ ずっと調査をしてくださりありがとうございます

謝礼が役立った(3)

- ・ 20 年の際は、本当に助かりました
- ・ QUO カードに助けられました。本当にありがとうございました
- ・ ギフトカードをいただけるのはとても助かります！

良い取り組み(2)

- ・ よい取り組みだと思います。
- ・ とても丁寧なアンケート調査だなと感じた。

調査への参加と結果(11)

役に立ちたい(5)

- ・ 少しでも調査に協力したいという気持ちがあり参加した
- ・ 少しでも役に立てて入れていたら嬉しい
- ・ 何かの、役に立てていたら幸いです！
- ・ 何かの役に立てればいいなと思います。
- ・ 自分の生活が安定してきたらサポート出来る側のことを手伝いできれば良いな

調査の結果が活かされるよう(3)

- ・ 調査の結果が反映されて、より良い暮らしになれば嬉しいなと思います。
- ・ 調査の結果をうけて今後より良くなってくことを期待してます。
- ・ このように、調査でまとめてくださることが、今後プラスになることを願います。

| |
|---|
| <p>調査の結果が知りたい(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> このアンケートが実際何の役に立ったのかが知りたい ぜひコロナ禍の多くの人の意見をまとめてください。結果が気になります。 |
| <p>調査に回答することの効果(6)</p> |
| <p>調査によって自分のことを振り返られた(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナの生活をちゃんと振り返るきっかけになった 自分の考えを見つめ直すことが出来てとてもいい この調査のたびに、自分の仕事がいかに恵まれているかを再認識させられた。 昔の調査はあまり覚えてないですが、アンケートを通して思い返せることもあった |
| <p>他の人の回答に励まされた(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケート結果をみて、わたし以外にも頑張ってるひとがいるんだなと感じました 結果を見るのは興味深く、みんな頑張ってるんだなと勇気づけられたりもしました。 |
| <p>調査の必要性と負担(6)</p> |
| <p>調査が必要(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 普く市井に社会的養護の抱える問題を定量評価し反映する一助にしていればと考えます。 定期的な調査は必要だと思います |
| <p>調査の負担(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 疲れた でも、古傷を抉る点もあった。 |
| <p>調査の内容を覚えていない(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> どのような調査だったか覚えていません。 |
| <p>社会全体の課題(7)</p> |
| <p>社会的養護の改善が必要(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> 今回はコロナという異例な事態によって、社会的養護を出た若者たちの孤独が浮き彫りになったが、コロナなど関係なしに私達は不安や寂しさと戦っている。何があっても1人で生きていかなければならない。誰も助けてはくれない。周りに家族がいないことは話せない。18歳という若さでポンと社会に放り出されることがどれだけ無理難題なことであるか。もっとサポートの体制を整え、精神的にも経済的にも自立できるようにした方が、長期的な目で見ると国にとって利益になるはずではないのかといつも疑問に思う。私は今の子ども達に同じような思いはして欲しくないし、させてはならないと思う。人生は長いから、長期的な目で人として生きる地盤を作るお手伝いをしてあげてほしいと思う。 子どもたちに関わる大人の発言や行動をもう少し正していただけませんか。特に目立つのが、子どもに対しての差別です。私も在園中に傷付く場面がたくさんありましたし、見てきました。言葉や態度で傷付けるのだけはやめて欲しいです 今後同じように児童養護施設やそういった施設にいる子供等が安心して暮らして欲しいと思う |

コロナ禍の影響(3)

- ・ 21年は生活立て直しで精一杯で、どうだったか記憶が曖昧。記憶力には自信があるが、今、コロナ禍での無理がたたり、健康状況があまり良くない。なんとか、自由の保証された安全安心な環境で自分を休ませたい。自分を責めていたが、それはやめて、立て直しに向かっている途中です。
- ・ コロナに関しては社会的養護を経験してきたしてきていない関係なく全ての人が辛い思いをしているなど改めて感じた。

参考資料

1. IFCA のこれまで

2013年の設立以降、社会的養護の当事者たちの社会参画を強調したプログラムづくりを実施してきました。過去16回の交流事業を実施し、アメリカでの当事者活動のエッセンスを学び、日本の社会的養護実践および政策の発信を行ってきました。

具体的には、米国の当事者支援ツールであるストラテジック・シェアリング（安全で効果的な自己のストーリーの語り方、2015年）やパーマネンシーパクト（永続的な支援関係を約束するためのツール、2019年）の翻訳を行い、実践現場に届けてきました。また、交流を経験した当事者が、2019年日本財団主催子どもの権利法委員会委員、厚生労働省児童部会社会的養育専門委員会の委員に就任し、政策への提言を行っています。

IFCAのwebサイトはこちら → <https://ifcajapan.org/>

2. この調査の担当者

井出智博（北海道大学）・岡 桃子（埼玉県立大学）・佐藤 葵（子どもの虹情報研修センター）・永野 咲（武蔵野大学） 以上、五十音順

IFCA プロジェクトC 問い合わせ担当：井出・永野
ifcaprojectc@gmail.com

この調査は日本財団の助成によって実施されました。

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

3. 調査内容

第3回 新型コロナの感染拡大による あなたの生活への影響についての緊急調査・2022年度 一過去に社会的養護を経験したことのあるみなさんへー

I F C AプロジェクトC
～ 社会的養護の当事者の「声」と「声」をつなぐ ～

！今年もアンケートへの協力をお願いします・謝礼あり！
！昨年度調査に回答した方限定！

2023年2月15日正午 締め切り

問い合わせ先：井出・岡・佐藤・永野
ifcaprojectc@gmail.com

<回答する前に必ず読んでください>

このアンケートは、2020年の調査に回答いただいた方だけにお送りしております。

アンケートへの参加はあなたの自由です

このアンケートに協力するかどうかはあなたが自由に決めることができます。もし、参加しなくても、あなたの不利益にはなりません。また、アンケートを配ってくれた団体にも、あなたが回答したかどうかや、回答の内容は知らされません。回答した後に気持ちが変わったなら、締め切りから**2週間以内**であれば、回答を取り消すこともできるので「問い合わせ先」にご連絡ください。

アンケートの目的

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）（以下、新型コロナ）は、すべての人の生活に影響を及ぼしました。私たちは、この大変な時期に、児童養護施設や里親家庭など社会的養護での生活を経験した皆さんが、どのように生活しているのかを知りたいと思っています。

皆さんの経験から学び、皆さんとともに必要な支援を考えていくために、社会福祉に関する学会や学術誌で報告するほか、必要な支援を社会に訴える予定です。

アンケートの内容

このアンケートの対象は、2020年の第1回調査に回答いただいた方のみです。アンケートのお知らせメールが届いた方以外からの回答は受け付けられません（謝礼をお送りできません）。他の方へこの調査を紹介しないでください。
※2020年の第1回調査が対象としていたのは過去に社会的養護を経験したことのある16歳以上40歳未満の方でした。

・・・調査対象者となるのは、過去に次の社会的養護を経験された方々です・・・

乳児院 里親家庭 児童養護施設 自立援助ホーム 児童自立支援施設
ファミリーホーム 母子生活支援施設 児童心理治療施設 一時保護所

このアンケートへの回答は1人1回だけです。
すべての質問に回答するには15分程度かかります。
アンケートに回答しないことも選択できます。回答するのが難しいと感じる場合は、回答せず次の質問に進むことができます。また、いつでも参加をやめることができます。

お礼

回答のお礼に**1500円のギフトカード**をメールでお送りします。
ご希望の方は、アンケートの最後の設問で送付先（メールアドレス）をおしえてください。

あなたの回答は他の人には知られません

アンケートの回答は匿名(とくめい)で行われ、皆さんの個人情報が特定されることはありません。お礼を送るために記入された連絡先情報は、ギフトカードの送付に使用するためです。あなたの個人情報と回答が関連づけられることはありません。

守秘義務(しゅひぎむ)

このアンケートはインターネットを使用しています。さまざまな方法で、データが守られるよう工夫をしています。例えば、このアンケートで集めたデータは、パスワードを使用して担当者だけが利用できるようにします。

結果の公表

アンケートから得られた結果は、必要な支援を訴えるためにホームページなどで公表する予定です。また社会福祉に関する学会や学術誌、研修会などで報告する予定です。

その場合でも、参加者の個人情報や誰が調査に参加したかについての情報は公開されません。同様に、この調査の報告書や出版物においても、回答者が特定

されることはありません。

《お問い合わせ先》

質問や心配な事がある場合は、IFCAプロジェクトC (ifcaprojectc@gmail.com) にメールでお問い合わせください。

※この調査の実施は、武蔵野大学人間科学部研究倫理審査(2020-02-04)を受けています。また、調査はJSPS科研費 20K13775「日本におけるケアリーバー調査のシステム構築と制度との循環（永野咲）」の助成を受けています。

同意する

回答をやめる

回答する

Section1 基本情報

Q1. あなたの年齢は何歳ですか？

選択してください

Q2. あなたの性別は何ですか？

男性

女性

回答したくない

その他

次へ

Q3. あなたはどの社会的養護での生活を経験しましたか？
(複数選択)

乳児院

里親家庭

児童養護施設

自立援助ホーム

児童自立支援施設

ファミリーホーム

母子生活支援施設

児童心理治療施設

一時保護所

わからない

その他

Q4. あなたが最後に経験した社会的養護はどれですか？1つだけ選んでください。

乳児院

里親家庭

児童養護施設

自立援助ホーム

児童自立支援施設

ファミリーホーム

母子生活支援施設

児童心理治療施設

一時保護所

わからない

その他

Q5. あなたの社会的養護での生活は合わせてどのくらいの期間でしたか？

選択してください



Section 2 現在の状況

Q6. 現在の**全般的な生活状況**は以下のどれに当てはまりますか。

- | | | | | |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| とても安定 | やや安定 | どちらともいえない | やや不安定 | とても不安定 |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

Q7. 現在の**経済状況**はどのようなものですか？

- 今後3か月以上安定していると思う
- 今後1か月くらいは大丈夫だと思う
- 今後1か月以内にはお金がなくなりそう
- 現在、お金の困っている
- その他

Q8. 現在の**身体**の健康状態を教えてください。

- | | | | | |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| とても良い | どちらかといえば良い | どちらともいえない | どちらかといえば悪い | とても悪い |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

Q9. 現在の**心**の健康状態を教えてください。

- | | | | | |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| とても良い | どちらかといえば良い | どちらともいえない | どちらかといえば悪い | とても悪い |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

Q10. 現在、**孤立・孤独感**をどのくらいの頻度で感じているか、教えてください。

- | | | | | |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 常にある | 時々ある | どちらともいえない | ほとんどない | 全くない |
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

Section 3 新型コロナの長期化による影響

Q11. 新型コロナの長期化によるあなたの衣食住について

| | よくあてはまる | あてはまる | あまりあてはまらない | 全然あてはまらない | わからない |
|--------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 新型コロナは私の住宅事情に大きな影響を与えている | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 新型コロナは私の食生活に大きな影響を与えている | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

Q12. 教育の状況は、新型コロナの長期化でどのように変化しましたか？

- 新型コロナ以前は教育を受けていなかった・修了していた
- 問題なく継続している・無事に卒業した・無事に進学した
- 大変なこともあったが、なんとか継続している・卒業した・進学した
- 教育の状況は変わらない
- 大変なことがあり、継続・卒業・進学が難しくなっている
- 休学しているが、復学の予定がある
- 休学しており、復学の予定がたたない
- 退学になった・進学を断念した
- その他

Q13.

新型コロナの長期化はあなたの仕事にどんな影響を与えましたか？(該当するものにすべてチェックを入れてください)

(複数選択)

私の仕事は新型コロナの影響を受けていない

新型コロナの影響で解雇された

新型コロナの影響で収入が不安定になった

新型コロナの影響で時間・収入が大幅にカットされた

新型コロナの影響で解雇されそう、あるいは著しい減給がありそう

新型コロナの就職への影響については、まだよくわからない

新型コロナ以前は仕事をしていなかった

その他

Section 4 新型コロナの良い影響と悪い影響

Q14. 新型コロナの長期化によってあなたの生活にプラスの影響はありましたか？

とてもあった まあまああった どちらとも言えない あまりなかった まったくなかった

Q15. 新型コロナの長期化によるプラスの影響について具体的に教えてください。

0文字

Q16. 新型コロナの長期化によってあなたの生活にマイナスの影響はありましたか？

とてもあった まあまああった どちらとも言えな
い あまりなかった まったくなかった

Q17. 新型コロナの長期化によるマイナスの影響について具体的に教えてください。

0文字

Q18. 新型コロナの流行で生じたマイナスの影響について、どのように対処したか教えてください。

0文字

Section 5 三年間をふりかえって・・・

Q19. 新型コロナが流行してからのこの三年間について思うことをご自由にお書きください。

0文字

Section 6 調査への意見

Q20.

2020年の第1回調査、2021年の第2回調査に参加した感想や調査に対する意見を自由にお書きください。

0文字

おわりに・・・

このアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

あなたの回答は、新型コロナ流行に対する社会的養護での生活を経験した若者のニーズを検討するために役立っています。

たくさんの時間を使ってご協力くださったことに感謝します。

1500円のギフトカードを希望する人は、お名前、メールアドレスと携帯電話の番号をご記入ください。アンケートへの回答は1人1度までです。

Q21. ギフトカードの送付を希望しますか？
*

はい

いいえ

Q22.

ギフトカードの送付情報（記入したあなたの個人情報は、ギフトカードの送付に使用します）。パソコンからのメールを受け取れる状態にしておくようお願いします。

お名前 *

フリガナ *

メールアドレス *

(E-mail)

電話番号 *

(半角数字)